

田原市(北陸・中部圏ブロック)

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

・北は三河湾、南は太平洋、西は伊勢湾と三方を海に囲まれた渥美半島のほぼ全域が市域で、海と山に囲まれた美しい自然環境を有し、農畜水産物が豊富。
 ・室町時代に築城された田原城の城下町が現在の中心市街地の基盤となっている。
 ・大正時代に現在の豊橋鉄道三河田原駅が開業し、交通の拠点として機能している。
 ・平成15年と17年に合併し、現在人口62,407人(平成27年)、面積191.12km²

【中心市街地を巡る状況】

- 大規模店舗の郊外化、コンビニの進出等により、事業所数や従業者数、歩行者・自転車通行量が減少している。
- 市全体及び中心市街地の人口は、平成17年をピークに減少傾向に転じ、市全体に比べて高齢化率が高くコミュニティの弱体化が懸念される。

目標	目標指標	基準値	目標値
まちなかを歩く人を増やす	歩行者・自転車通行量	1,769人 (H27)	2,100人 (H32)
まちなかに住む人を増やす	居住人口	2,941人 (H27)	3,040人 (H32)
新規出店や活動場所を増やす	新規出店・開設施設数	17件 (H22～H26)	25件 (H28～H32)

【中心市街地に関する指標の推移】

- 歩行者・自転車通行量
H20:1,024人 → H26:944人(▲80人、▲7.8%)
- 居住人口
H17:3,204人 → H27:2,941人(▲263人、▲8.2%)
- 民営事業所数
H13:346事業所 → H24:299事業所(▲47事業所、▲13.6%)

【目指す中心市街地像】 花・緑・歴史的景観など「田原らしさ」を感じられ、歩いて楽しい活気あるまち

まちなかを歩く人を増やす	まちなかに住む人を増やす	新規出店や活動場所を増やす
<p>【主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三河田原駅前工場跡地活用事業 ・歴史ウォーキングトレイル修景事業 ・水辺ウォーキングトレイル修景事業 ・幸せの四つ葉プロジェクト事業 ・まちなか賑わいイベント開催事業 <p>など</p>	<p>【主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家・空き地バンク活性化事業 ・空き家修繕等助成事業 ・居場所づくり支援事業 ・在宅高齢者御用聞きサポート事業 ・バリアフリー化推進事業 <p>など</p>	<p>【主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三河田原駅前工場跡地活用事業〔再掲〕 ・まちなか広場整備事業 ・空き店舗活用モデルリノベーション事業 ・起業チャレンジ促進事業 ・産業人材育成事業 ・創業支援ワンストップ窓口設置事業 <p>など</p>

田原市中心市街地活性化基本計画の事業概要

まちなかを歩く人を増やす

①三河田原駅前工場跡地活用事業

集客拠点として、地域資源である農畜産物や花き、海産物を活用したレストラン、カフェなどからなる複合施設、子育て施設を整備する。

②歴史ウォーキングトレイル修景事業

③水辺ウォーキングトレイル修景事業
中心市街地内の歴史資源を結ぶ道路の舗装美装化、河川沿いの道路沿いに桜並木を整備するなど、散歩道として修景整備する。



④幸せの四つ葉プロジェクト事業

四つ葉のクローバーをモチーフにしたオリジナル商品の開発・販売、イベントを実施するとともに、ガイドブックを作成し参加店舗がまちなかの観光案内機能を担う。



⑤まちなか賑わいイベント開催事業

季節ごとのイベントを開催するなど、来街のきっかけづくりとリピーターの増加に寄与する。



新規出店や活動場所を増やす

⑥まちなか広場整備事業

三河田原駅前工場跡地活用事業とあわせて市民や来訪者の憩い・交流・滞留場所となる広場を整備する。

⑦起業チャレンジ促進事業

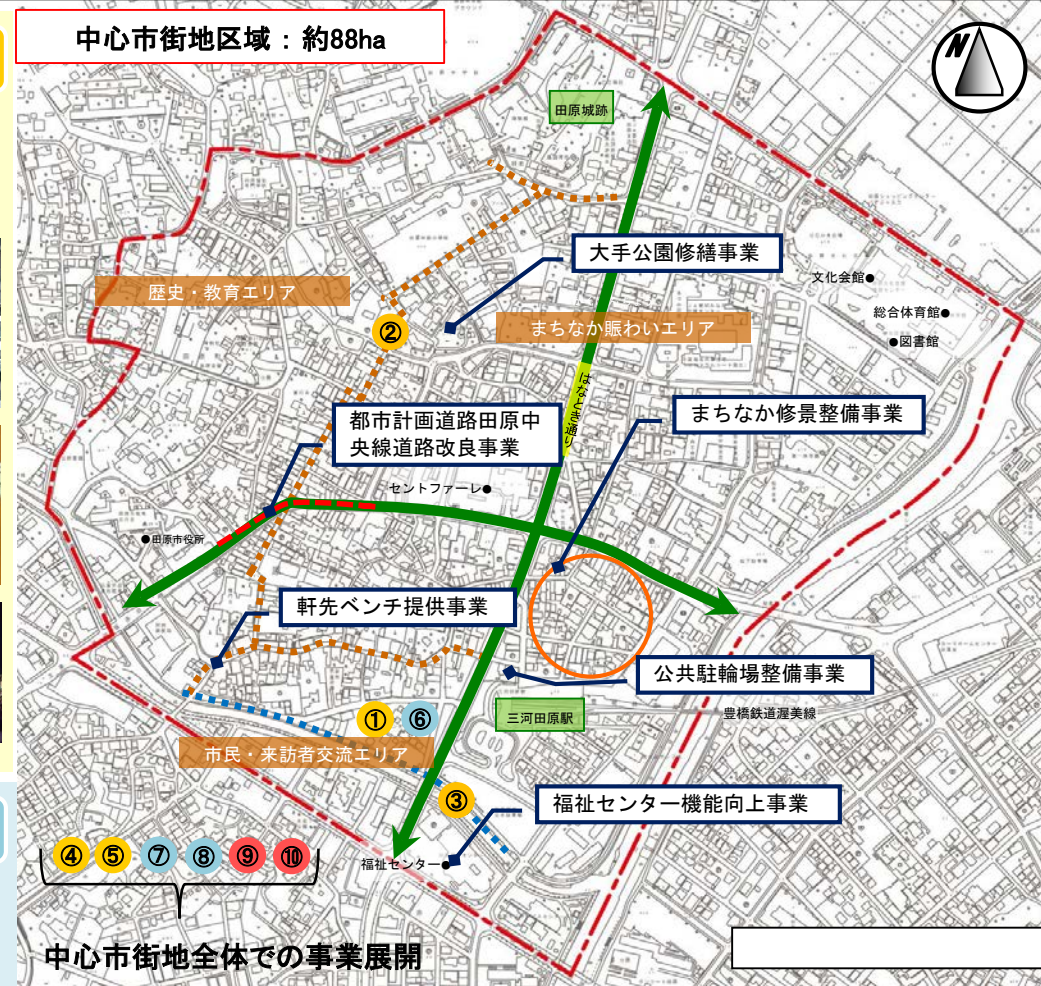
試行的に出店できる店舗を確保し、若手起業家を対象に賃貸し、物販や飲食等の出店希望者が中心市街地に出店しやすい仕組みを構築する。

⑧産業人材育成事業

新規創業者などの人材育成を行うことで、中心市街地に出店・起業してくれる人が増えることにより商業の活性化及び賑わいの創出を図る。



中心市街地区域：約88ha



中心市街地全体での事業展開

まちなかに住む人を増やす

⑨居場所づくり支援事業

市民が利用するコミュニティ空間の整備や地域活動に対して助成する。



⑩在宅高齢者御用聞きサポート事業

地域商店が連携し、まちなかの高齢者を対象に食料品などの配達や身の回りの生活をサポートするサービスを提供する。